

令和6年度 岩手県立高田高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

1 開催日時

令和7年2月20日(木) 10:00~11:00

2 会場

高田高校会議室

3 内容

(1) 開会

(2) 校長挨拶

本日は今年度2回目の学校運営協議会となる。この会は一年間の本校の活動や取組について評価を行い、それを次年度につなげるという大事な役割がある。その後、取組状況について説明するので、忌憚のない意見を頂きたい。

(3) 協議

(ア) 令和6年度における学校運営実績について

○副校長

重点目標1「基礎基本の定着と学力の向上を図る」について、生徒個々の実態に応じた学びの推進だが、学習障害のある生徒への配慮や生徒の主体性を考慮した課題の提出など、個別最適な学びを進めて基礎学力の定着に努めている。また、教員の授業力向上を図るために授業公開や互見授業を計画的に行っている。年に2回、生徒による授業評価アンケートを行い、その結果を各教員が授業に反映させている。

重点目標2「地域と連携・協働した教育活動を推進する」については、本校の一番の特徴と言える。T×ACTIONの展開により、自治体や地域企業団体との連携を密にして様々な活動を行っている。地域活動から海外派遣活動まで、自治体や各団体から大きな支援をいただき、幅広い体験をさせてもらっている。

重点目標3「復興・防災・減災教育を充実させる」について、校舎が全壊し、県内で最も被害が大きかった地域にある本校は、この取組を最重要視している。今後は震災を経験していない生徒が入学してくるため、震災の教訓を語り継ぐ活動の充実を図っていくことが重要と考えている。

重点目標4「海洋システム科の活性化を図る」について、昨年度から6次産業化を視野にコース制を廃止した教育課程を実施している。各種販売実習や、魚類養殖に関する講義、水産アカデミー在校生による講話など、外部人材を活用した授業を進めてきた。今後は中学校との連携を増やせるような活動を進めていきたい。

重点目標5「生徒の人格を尊重し、不適切な指導を根絶する組織づくりを推進する」について、昨年度、体罰・暴言防止に向けて本校で宣言した「生徒の人格を尊重し、思いやりのある指導を行うこと」を常に意識して研修を行い、共通理解を図ってきた。様々な悩みを抱えている生徒がいるため、今後もスクールカウンセラーや学校医等とも連携を取りながら、

生徒理解に努めていきたい。

重点目標6「実効的に機能する学校いじめ対策組織を構築し、組織的にいじめの未然防止、適切な対処に当たる」について、いじめに関するアンケートの実施や人間関係づくり講座などのサポートはもちろん、文化祭などの学校行事や本校ならではの校外実習、ボランティア、アルバイトなど、さまざまな活躍の場面を用意することで、生徒が活躍できるようにしている。今年度、ここまでのいじめの認知件数は10件で、昨年度とほぼ同数である。この重点目標の達成指標は、「いじめや嫌がらせがなく、落ち着いた学校生活を送っている」と答えた生徒の割合が90%以上としている。昨年度はこの割合が92.4%であり、指標を達成したが、今年度は69.6%と大きく90%を下回り、目標を達成できなかった。理由は、今年度はいじめの認知の段階で加害生徒が特定できない事案が数件あり、緊急の臨時全校集会を開催し、情報提供を求めたことが、落ち着いた学校生活が送れていると回答した生徒の割合が低くなった要因の一つだと考えている。

令和6年度学校運営実績における特記事項について、部活動関連では女子ソフトテニス部のインターハイ出場、女子バレー部や水泳部の東北大会出場、ソフトボール部の国民スポーツ大会出場など、生徒の頑張りが今年度も多く見られた。また新人戦の卓球女子個人戦では、68年ぶりの優勝を飾り、その後の岩手県選抜大会も制し、3月20日に全国大会に出場するという1年生も現れ、大いに部活動が活性化している。部活動以外でも新聞委員会は5年連続の県最優秀賞、全国高総文祭に出場した。多くの生徒が主体的に取り組み、成果を出している。

その他の主な教育活動として、海洋システム科の生徒研究発表会では、本校が県大会の会場となり、最優秀賞を獲得して東北大会に挑んだ。コロナの流行で中断していたアメリカデルノート高校との交流事業が5年ぶりに再開し、1月に9名の生徒がアメリカへの海外派遣事業に参加した。2月24日には一般市民向けの報告会をコミュニティーホールで開催することになっている。

3学年の生徒の進路状況については、専門学校を含めた進学は1月末時点で83名であり、私立大学への進学が若干増加している。就職については、昨年度は32名だったが、今年度は26名となっている。就職先は管内企業と県外企業が半々という状況である。

○議長

令和6年度の重点目標の実績について説明があった。この件に関して意見、質問はないか。

今日は達成状況について、学校関係者評価と、最終的に総括的な評価の意見をいただきたい。そのことを踏まえながら、何か意見や質問はないか。なければ進める。

令和6年度の学校評価についての説明をお願いします。

(イ) 令和6年度学校評価の結果について

○副校長

毎年、生徒、保護者、教員に行っているアンケートの結果である。今年度も12月上旬に行った。A、Bが肯定的な評価であるが、全質問のA、Bの平均値が、昨年度は92.2%で、今年

度は 88.6%となっている。若干の上がり下がりはあるものの、昨年度とほぼ同じような割合となっている。保護者の自由記述に対する学校側の回答は、ホームページにも掲載しているので、後で確認いただきたい。

○議長

令和 6 年度の学校評価の結果について説明があった。この件について、意見や質問をお願いしたい。なければ先に進める。

それでは、以上の点を踏まえて、令和 6 年度の岩手県立高田高等学の評価報告について、検討したいと思う。令和 6 年度について、カ「実効的に機能する学校をいじめ対策組織を構築しえ、組織的にいじめの未然防止に適切な対処に当たる」という重点目標だけが達成指標には届かなかったが、その他の重点目標は届いたということであった。本日は、委員の皆様から学校関係者の評価や改善方法についてお伺いしたい。最終的には、学校でまとめるので、委員の皆様は忌憚のないご意見を伺いたいと思う。項目ごとに進める。

最初にア「基礎基本の定着と学力の向上を図る」について、何か意見や質問はあるか。

○委員

【質問】本校でも授業が分かるかという質問項目を学校の指標目標として期待して 70%と各教科設定しているが、何とか超えるぐらいである。思ったよりは高いと感じているが、実際の全国学調や県学調などの目に見える数値的な学力の部分は低い。実際に子供たちが分かると感じている部分と、実際の点数と比べた時に、そのギャップが課題と思っている。今回の指標が 90%に対して 95.7%は数字が高くなっているが、実際に基礎基本の定着と学力の向上という認知能力的な定着はどういう状況か。

○教務課主任

【回答】本校でも同じ印象を持っている。授業の中で分かったと思ったとしても、それが定着せず、考査や模試などの学力関係の調査の時には、それがうまく発揮できていないという印象を持っている。本校では学習実態調査を毎年 2 回行っているが、結果を分析し、何が足りないのか、課題をどのように出したらいいのか、日々の授業をどのようにやっていったらいいのかなど、これから考えながら学力の向上に努めて参りたい。

○委員

【質問】家庭学習など授業以外のところで、子供たちがいかにその定着を目指した取組ができるかということが、本校でも課題である。アンケートで家庭学習の習慣が定着しているという回答が生徒と保護者は AB あわせるとかなりの数値であるが、教職員のところは C が多くなっている。やはりこの辺が課題か。

○教務課主任

【回答】職員会議でも話題になったところである。先生方がここまでやって欲しいと思って

いる部分と、生徒がやっていることとの乖離がある。部活動なども一生懸命取り組んでいる生徒が多いので、そこのバランスの取り方がまだまだできていないと思う。部活動と学習のバランスは、長年課題になっているが、学習にも部活動と同じように力を向けられるようにしていかなければならないと感じている。

○議長

続いて、イ「地域と連携・協働した教育活動を推進する」の項目について、意見や評価をお願いしたい。

○委員

【質問】高校魅力化評価システム分析の「今住んでいる地域の行事に参加した」「ボランティアに参加した」が50% 近辺だが、学校評価の結果の「学校は地域との連携を図っている」が生徒はAが約70%、Bが30%弱であるが、このギャップはどういうことか。

○副校長

【回答】高校魅力化評価システム分析は、県が導入しているものである。学校評価の結果は、学校独自の評価のシステムとなっている。生徒にとって授業としては、いろいろな方々と協働しているので、学校評価の結果については、その評価だと思う。高校魅力化評価システム分析の方は、どちらかという授業以外の部分で、自分が自主的に、例えば放課後や休日にボランティアなどに参加している生徒が少ないためにその差がでていると認識している。

○委員

【質問】自己評価のところで、98.4%ということで、A Bが多くてよい評価になったと認識しているが、地域との連携についてどのようなことが行われて評価達成になったのか、具体例を紹介いただきたい。

○企画情報課主任

【回答】市の商政課の協力をいただき、ワークトリップという陸前高田市内の企業を見る取組をしている。岩手県の助成をいただき、北上や盛岡にもものづくり産業を見に行く取組もしている。今1年生はプロジェクトで、地域課題の解決のために、ものづくり・防災、総合政策、医療・福祉・保育のそれぞれの分野で、外部の方にも指導いただきながら取り組んでいる。2年生では、就職、専門学校進学の子供たちは地域貢献活動で、高田松原の再生活動や高田松原の清掃活動、地域の果樹園を訪問して一次産業がどのように社会に貢献しているかを学んでいる。文系の大学進学と理系の生徒については、立教大学と高大連携の取組をしており、大学生に指導していただきながら、地域課題を大学の授業並みの視点で活動することに取り組んでいる。それ以外にも、紡ぐイルミネーションのボランティア募集に20名を超える生徒が積極的に応募したり、高田

松原海水浴場の監視のアルバイトや地域の小売店のアルバイトも毎回 7,80 名が参加したり、かなり地域経済に派遣していろいろ体験させてもらっていると自負している。

○委員

【質問】 1年生の T×ACTION に関わって生徒と接している中で、スマホを授業の中で取り入れているが、進路選びのツールとしてまだ活用されていない印象を受ける。様々な情報を取り入れるのに便利だが、趣味のものなど自分の楽しみのところにまでしか至っていない。進路選び、進路学習にそういうツールが使われるととっても良いと思っている。

質問だが、ボランティア活動で地域のボランティアに参加している生徒がいるということだが、さらに積極的に参加を促すという意味で、地域側がボランティアのニーズを一元化してボランティアのメニューリストがあると学校として便利なのか、より参加を促しやすいか意見をいただきたい。

○企画情報課主任

【回答】 ボランティアリストがあれば計画が立てやすいと思う。ただ、年間行事予定には見えない行事、部活動の取組とか、教員側の成績処理の日程とか、実際には引き受けできない期間に話ができることがある。また、ボランティア開催日の 2 日前に話がきて、生徒を参加させることができなかつたことがあつた。生徒の進路を考えるとこっちの方が良かったというボランティアが後から来ることもあり、できれば生徒の進路希望別にボランティアをお願いできるとよい。例えば、ボランティアの形ではなく、インターンシップの体験をさせていただくときに話を持っていきやすい。就職専門学校進学希望の生徒だけではなく、大学進学希望の生徒もインターンシップをやったほうがよいという県の指針があるので、高田市内全域でボランティアやインターンシップの引き受け先一覧があるとさらに生徒の探究活動が進むと思う。

○委員

【意見】 学校側の年間スケジュールとか都合もあると思うので、双方が積極的に提示して、学校側に選んでいただく、生徒に選んでいただくのがよいと思った。

○議長

続いて、ウ「復興防災減災教育を充実させる」という目標の評価等をお願いしたい。

○委員

【質問】 震災を知らない世代の生徒が入学してくる、震災をぎりぎり経験している生徒も在籍していると思うが、今高田高校の生徒の中で、もし東日本大震災級の震災があつた場合、自分が避難所等の避難生活でどういうことができるのか、どういうことをするかという具体案はあるか。もちろん学業とか部活動は優先だが、その中で役割とか、具

体的な意識付けとかされているか。

○副校長

【回答】具体的にはまだ話は進んでいない。本校では第二体育館が避難所になっているため、例えば避難命令が出た時に、どうすればいいのかということは、これから市とも協議しながら、進めていかなければならない重要な事項だとは思っている。

○委員

【質問】防災講話の内容を精査するとあるが、やはり14年経って必要な内容も変わってきており、本校でも悩んでいるところある。高田高校では、どのように防災講話を考えていくのか。

○企画情報課主任

【回答】防災講話について、今年の3.11のメモリアル行事では、本校の卒業生に来ていただき講演してもらう予定である。防災意識の高い卒業生がどのような活動をしているかについて、生徒の前で語ってもらう予定である。講話とはちょっと違うが、高田高校はいつまでも全国から見ると被災地のようで、防災についての連携学習の話が多数くる。昨年度から京都の工学院高校と連携したフィールドワークを行っており、防災意識の高い生徒と交流する中で震災を体験してない生徒たちが入ってきても、いろいろな交流を通して防災意識を高めていければよいと考えて取組を進めていく予定でいる。

○議長

続いて、エ「海洋システム科の活性化を図る」について意見を願いたいしたい。

○委員

【質問】「地域水産業の実態を踏まえ、興味関心が高められる授業実習がなされている」の項目で高い評価を受けているが、具体的にどのような内容の授業実習を行ったのが、この結果につながっているのか。

○海洋システム科主任

【回答】例年、地域に出て行き体験的な学習や実習を多くしている。インターンシップなど水産海洋関連産業に積極的に出向き、水産や海洋について理解を深めている。広田湾漁協のサーモン養殖の現場実習で、実際にニッスイの方からお話を聞いた。6次産業化を踏まえた学科ということで、ありとあらゆる水産、海洋に関する分野や場所に出向いたことが、この結果につながっていると考えている。

○委員

【意見】昨年度は一度しか高田高校に行けず、生徒と一緒に行動はできなかったのが反省点

と思っている。私たちは遠いので、この会議のように遠隔の利用や、またジャムスティックの人たちと一緒に海洋の環境のことについて話をするということを、具体的に計画を立てて行っていきたいと思っており、今後進めていきたい。

各漁協だとか、水産業を訪ねていき講話を聞くということもそうだが、最終的には高田高校が地域の中心の場となり、情報を発信していくところになって欲しいというのが私やジャムスティックの希望でもある。海洋システムの生徒たちが、水産や海洋の環境を発信していくための情報収集に、生徒がもっと活躍をしてくれるといいと思っている。ただし、これは先生たちの中の問題意識が重要だと思っているので、私たちがそこをお手伝いできたらいいと思っている。別途先生たちと協議をしていきたい。

○議長

続いて、オ「生徒の人権を尊重し、不適切な指導を根絶する組織づくりを推進する」に意見評価をお願いしたい。

○委員

【感想】本校でも教育相談を大事にしながらやっている。保護者も含めて高田の人たちはその部分についてはすごく前向きな方が多いので、いい結果になると感じている。

○委員

【質問】先生方については、意識の共有は分かりやすいと思うが、例えば部活の外部指導者とか外部の方々に対しては、意識の共有はどのようにやったのか。

○副校長

【回答】今年度、岩手モデルが策定され、学校の先生だけではなく、外部指導者等にもこの中身については、情報共有しなければならないとなっている。年度始めやその後の機会も含めて先生方も研修して、その情報を外部の方々にも提供しており、同じような目線で生徒に当たっている。

○議長

続いて、カ「実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる」について、意見、評価をお願いしたい。

○委員

【質問】加害事件があつて人物が特定できなかったため、69.6%という結果ということは分かったが、これを今後どうすることによって、生徒が落ち着いた生活を実現していけるようになるか、対策はあるか。

○生徒指導課主任（佐々木）

【回答】今年から始業式や始業式、全校集会などで話をする機会を少し増やしている。今後も継続して取り組んでいきたい。

○委員（佐藤学：高田一中校長）

【質問】いじめ問題に関わっては、中学校も大きな課題で、ほぼ100%スマホやSNSが絡んでいる。使い方のルールは再三指導しているが、親や先生が見えないところで、かなり巧妙な手口で行われているという実態がある。高校になると少し落ち着くのか。

○生徒指導課主任（佐々木）

【回答】ここ数年は生徒指導課だけではなく、担任からも日常生活や行事でのスマホの使い方も含めて、日常的に細かく注意しているので、SNSに通じたトラブルはここ数年そこまで上がっていない。ただ、アプリがどんどん開発されていて、仲のいい生徒だけのグループ付き合いなど、閉鎖的になっているところもあり、我々が認知できていないところもある。いじめアンケートを年4回取っていて、5、6年前はいじめアンケートに記載する生徒はほとんどいなかったが、最近は10件ぐらいある。その要因としては生徒の中で解決できなくなってきているとか、一言の悪口を前は別に気にしないからいじめではないという感じで書かなかったものをいじめだと書いてくるケースもあるし、いじめアンケートでも半分ぐらいは本人ではなく、周りの生徒が「あの子が辛い思いをしている」と書いてくる。生徒が我々教員にSOSを出しやすい距離感になってきており、アンケートにしっかりと書いてきてくれるという両方向あると思っている。これからも一件一件のことに對してどっちなのかを探りながら、見ていきたいと思っている。

○委員

【質問】いじめと嫌がらせということだが、具体的ないじめや嫌がらせの内容はどういうものか。

○生徒指導課主任

【回答】内容的には陰口が多い。ある生徒が本人のいないところで悪口を言っているとして、それを周りが聞いていて本人に伝えるとか。あとは伝えていなくてもアンケートで上がってきて、事実確認したら陰で言っており、言われた生徒も嫌な思いはしていますとか。あとはある生徒をからかっている、からかわれた生徒は嫌な気持ちがあるけど、黙って我慢している。そうすると加害者は何も反応しないから、どんどんエスカレートしてしまってブレーキかけられずに、周りが報告するというような悪口・からかい系が多い。

○議長

最後に総括的な評価を委員の皆様からお聞きしたい。総括的に見てどうだったか。

○委員

【質問】少し戻ってしまう話になるかもしれないが、アンケートの結果の「学校は生徒や保護者の悩みや相談に適切に対応している」で、CやDと回答している方の具体例は何か。保護者側から質問やもっとこうして欲しいという話はきているのか。

○副校長

【回答】具体的なものは今提示できないが、先ほどの加害者が見つからなかった時の対応で少し時間がかかってしまうところもあったので、それも含めての保護者のご意見だと思っている

○議長

【質問】学校評価の結果について、「職員の業務は適切に分担されている」で、先生方からの評価で、あまりそう思わないというところが気になる。業務が多忙とは思いますが、その辺を来年度以降改善できるような方法を考えているか。

○副校長

【回答】これに関しては昨年度よりもポイント数が20%ぐらい減っており、この調査の中で一番減っている。これについては本当に早く直さなければならない課題だと思っている。管理職の方でしっかりと話しながら来年度に向けて進めていきたい。

○議長

続けて、高田高校の魅力化について委員の皆様からご意見を伺いたい。最初に高校魅力化評価システム分析について説明をいただきたい。その後、どのような活動があれば高田高校がより魅力的になるのか、今後入学生の確保が難しくなる時代に高田高校が輝けるための活動がいかにあるべきか、委員の皆様から忌憚ないご意見をいただきたい。

○副校長

この評価システムは、地域社会に開かれた教育の実現のために県が導入しているものである。100近い質問事項があるので、すべてを説明することはできないが、このアンケートの結果から見えてきた高田高校の強みを紹介する。

まず、学習環境面で自分が何か挑戦しようと思った時、周りは手を差し伸べてくれると答えた肯定的な割合は96.7%。また、地域に尊敬している、憧れている大人がいるという項目にも68%が肯定的な回答をしている。この結果は、高田高校と地域との協働的な活動の成果だと考えている。また自分と異なる意見や価値を尊重することができる、学校の一員だと感じているという項目にも94%以上が肯定的な回答をしており、本校の地域との連携が人間形成にも大きな影響を及ぼしている。

この学校に入って良かったと思う 93.5%、学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている 89.6%、この学校を中学生にすすめることができる 92.6%と昨年度と比較して5~8%上昇しており、概ね良い方向で推移していることが分かった。

一方で数値が低い項目は、地域社会などでボランティア活動に参加した割合が 37.3%になっている。この割合は昨年度から減少しているが、全国平均や県の平均から比べれば約 10 ポイント以上良い結果ではある。授業の中では地域と関わりが強いと感じるが、授業以外での積極的な地域参加が課題である。

また、この地域を将来暮らす場所としてお勧めできるという項目では、72.8%が肯定的な回答であったのに対し、将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思うという項目での肯定的な意見は 48.5%と半数以下の結果が出た。地域の良さを再確認するような取組の必要性を感じている。

○議長

高田高校の魅力化について、皆さんの方からご意見をいただきたい。

○委員

【意見】学校運営実績の高田松原再生活動は、高田松原に行ってゴミ拾い等だと思う。そうするとボランティア 100%である。認識の違いだと思うから直した方がよい。地域のためになっている。

○委員

【意見】ボランティアのところの数値が低いですが、本校も同じである。生徒会の子供たちと P T A 役員、学校運営協議会の方々との懇親会の中では、大人たちにすれば、地域の行事とかボランティアにもっと中学生が参加して欲しいという話があった。子供たちが消極的なのかと思いきや、子供たちの方ももっとやりたいという声がある。多分高校生も同じ気持ちだと思う。現在はボランティアの誘いがくるのも待っている状況なので、本校の地域コーディネーターの方に少し整理してもらいボランティアバンクみたいなものの作成をお願いしている。もしできれば一緒に中学生と高校生が関われるような場面も作ればよいと思っている。

○委員

【質問】私に関わっていた時に、海洋システム通信というのがあり、今ホームページを見ると、21 年度までは掲載されているが、それ以降は掲載されていない。魅力化を発信するには非常にいいと思っていたが、どうして今は掲載しなくなってしまったのか。

○海洋システム科主任

【回答】海洋通信に関しては、今年度、昨年度と様々な事情があり、発行できる状況では

なかった。今年度再発行に向けて動いており、来年度以降、発行手段を増やすことを科で検討している。来年度以降復活させるよう今後努力していきたい。

○委員

【意見】生徒が自主的に活動できるかということもあるが、もしも必要ならジャムステックと共同で、広田湾がどのように変わってきているとかなど最先端の情報を送ることは可能である。海洋システム科の魅力をどんどん発信していただきたい。

○議長

以上で協議事項は終わりとなる。

○副校長

その他について何かあるか。

○委員

来年度から女子の制服がスカートからズボンまで選べることになるそうだが、式典の時はスカートにするなどの規定はあるのか。

○生徒指導課主任

特にそういう規定は設けていない。

○副校長

令和7年度第1回学校運営協議会は、例年4月の中旬から下旬も予定している。近くなったら日程の調整をさせていただきたい。また委員の任期は1年となっているが、複数年委員になることを妨げるものではない。基本的にはそのまま翌年の委員を依頼したいと考えている。転勤や内部移動等により委員を降りられる場合は、連絡をいただきたい。

本日の旅費については、旅費支給の対象の方に事前に提出いただいた口座に後日振り込みとなる

以上で、第2回学校運営協議会を終了する。この後もし時間がある委員は本校の授業を自由に見学して生徒の様子を見ていただければと思う。